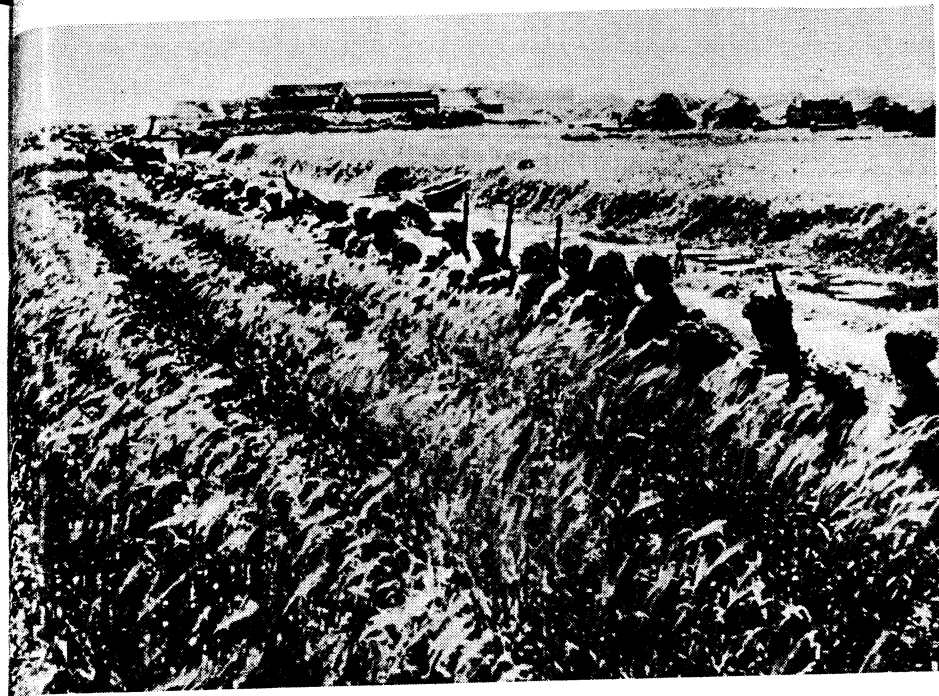




徐州徐州と人馬は進む…



昭和十三年四月 徐州作戦は開始された。一兵卒として従軍していた火野葦平氏は、その体験をもとに『支と兵隊』を書いた。この本は銃後の国民に愛読され、ベスト・セラーとなった。写真右はその本と筆者のプロフィール。

日本側のいう『不法支那軍』も、不法支那（中華民国国民政府）側のいう『日軍』も発砲していなかったのに、銃声は蘆溝橋河原の闇にひびきわたった。やはり、日支両軍以外の何者かが、日支両軍にむけて発砲したのである。

——では「何者か」とは何者であったのか。本書は客観的にそれをつきとめた。